

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	内部研修にて理念について共有し、実践できるようにしている。一人ひとりに聞くと、深くは理解できていないと感じる時がある。	事業所は、3つの経営理念、5つの介護理念があり、管理者は職員が理念の重要性を認識して、根拠のある介護の提供を実践できるよう周知を図っている。管理者・主任による面談時には理念に基づく内容で確認し合っている。職員間で共有し、同じ方向性を持ち日々の支援が展開されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小、中学校の福祉学習や自治会と合同の敬老会、同町内の子供達との交流会は、毎年恒例になっている。近隣の散歩での挨拶は、日常の中で自然に行っている。	自治会に入会、ボランティアの受け入れ、小中学校の福祉学習に協力、地域住民も参加の消防訓練、小学生も日常的に学校帰りに立ち寄る等、地域密着型事業所として、地域の中で共に成長していこうとする姿勢が窺える。積極的に地域と関わりを持ち、地域に見守られ、地域の一員として活動している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	消防訓練では、利用者様の避難誘導などをお願い協力して頂いている。福祉学習や地域の子供達が遊びに来た時も、認知症の方の支援方法などを伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見交換を積極的に行い、サービス向上に反映させている。会議内容は全職員へ回覧し、共有している。	2ヶ月に一度開催される運営推進会議には、包括職員、自治会長をはじめ複数の地域住民、利用者、利用者家族、地域の同業事業所の管理者等、毎回多彩なメンバーが参加している。事業所からは現状の報告、参加者からは災害時のアドバイス、対策等の意見が出され、活発に意見交換されている。また、出された意見は職員間で検討し運営に反映されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類関係は、直接市町村へ持参し提出することで、協力関係が築けるように取り組んでいる。	入居希望者の案内や更新調査の依頼など、役所にはできるだけ足を運び顔の見える関係を築くように努めている。現状として困難事例はないが、包括支援センターと共に、いつでも相談できる体制が整備されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、考え方を間違えると拘束につながることもあり、法律を含め具体的に理解できている職員や危機感を持っている職員は少ないと思う。	年1回外部研修に職員が交代で参加し、その後には伝達研修を実施している。ほぼ全職員が参加しており認識されている。玄関の施錠も含め、行動制限はしない事を原則に、利用者一人ひとりの行動に配慮し利用者の安全確保に努めている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修等で学んできている。虐待が発生することのないように正しい知識を持ち、職員の支援の様子や表情などにも注意を払い、閉鎖的にならないよう風通しの良い環境にも心がけている。	身体拘束と共に研修に全職員が参加し虐待について正しく認識できている。日頃の支援の中で何気ない言葉かけが虐待につながるよう職員間で注意している。管理者は年2回の面談の他職員の日々の様子にも目を向け、話しやすい雰囲気作りに配慮している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会はあまりない。管理者・ケアマネジャーが必要な方に支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	安心できるように十分時間をかけ、丁寧な説明を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時、担当者会議、家族会などで、要望を引き出すようにしている。要望シートを活用し、早めの対応策を検討している。日常的に、話しやすい雰囲気作りを心がけている。	納涼会、忘年会には家族も参加し、利用者、職員と共に食事を摂る機会が設けられている。担当者会議出席時や日頃から面会も多く、家族が気軽に意見が出せるよう配慮すると共に、意見は事業所にとって大切と考え、出された意見は時間を置かず検討し運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営については、年に1回内部研修にて学んでいる。管理者は、職員の意見を良く聞いており、運営などに反映させている。代表者には、意見を伝えても、特に金銭面に関しては意見が通らないこともある。	月1回のユニット会議、毎日行われるミニカンファレンスで、職員が意見を出し合い支援の方向性を確認することで、日頃の支援が行われている。管理者は普段から職員の意見を聞くようにしており、年2回リーダー以上の職員がホーム長、理事との面談時に現場職員の意見も伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年目標シートを記入し面談はしているが、向上心を持てるようには努めておらず、努力や実績に応じた給与体制ではない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が、年に一度は外部研修に参加しており、幅広く学べる機会を作ってくれている。また代表者からも年度始めの内部研修において経営理念・社会福祉法人について話をしてくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修などで交流する機会はあるが、情報交換などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期には特に関わりを多く持つようにし、ご本人のお話に耳と目を傾け、心が通じ合えるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	導入する時には、管理者・主任を中心に話を聞き、それらを全職員が共有できるよう、伝達を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	すぐの入所には至らず、その時必要な他のサービスの提案があればさせてもらっている。時には、サービス事業者へこちらから問い合わせをして繋げるケースもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	必要以上に介助しないように努め、できるだけ家事に参加して頂いている。助けてもらったり教えてもらうことが多く、共に支えあう関係作りに努めている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を支えるためにご家族へ協力を依頼したり、日々の来訪などで相談しながら、共に支えあう関係となるようにしている。	隔月で発送しているユニット別の事業所だよりは、利用者全員の写真、利用者それぞれの日頃の様子を詳細に記入し、本人を身近に感じてもらえるようにしている。月2回、2泊3日で帰宅する利用者、週2回面会に来られるご家族、日用品の購入、本人希望で電話での対応、外食に誘うご家族等々、それぞれできる範囲で寄り添い、支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が訪ねて下さる時には、訪問しやすい雰囲気が作れるようにしている。フェイスシートに情報を入れるようにしたが、入居年数が長くなればなるほど、縁が遠のいている。	外出支援は頻繁になされ、ドライブの途中で自宅近くまで行ったり、隣家人が訪問に来られた時はホール内に個別の空間を用意しゆっくりできるよう配慮している。また買い物同行時に知人から声をかけてもらう事もあり、懐かしく感じる様子を窺うこともできる。利用年数が長くなり馴染みの関係が薄れてきてはいるが、できるだけ継続できるように支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食席やソファコーナーなどで、利用者様同士で関われるように支援している。車椅子を押して下さる利用者様もいらっしゃる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先・入所先などを訪問し、必要に応じ相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	直接話を聞いたり何気ない会話の中から思いなどを把握できるよう努め、カンファレンスなどで話し合っている。言葉に表せない方の場合、本人本位に検討している。	入居前に利用者情報シートを用いてご本人の思いや希望、心身状態を詳細に確認している。日々の関わりの中で気付いたことは、カンファレンスなどで話し合い、連絡ノート等に記録して職員間で情報共有している。しっかりと目線を合わせて本人の視点に立ち、心を込めた聴き方を実践し、思いや意向の把握に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報シートや本人・家族からの情報により把握に努めている。サービス利用の把握などは、入居年数が長くなると様々な経過が思い出せなくなっていることも多くなっている。	フェイスシートや情報シートに本人、家族から生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境を確認している。また、文章にて生活歴や性格、注意点や配慮してほしい点を提示して下さる家族もおられる。前任のケアマネージャーや医療機関、サービス事業所からも情報の供を受け、環境の変化に配慮してアセスメントを実施している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	希望を把握し、心身状態の把握にも努め、変化を見逃さないようにしている。カンファレンスなどでも情報の共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員・計画作成担当者が中心となってモニタリングを行い、ユニット会議や普段のカンファレンス・職員の面談時にも利用者様に関する意見を聞いている。又医療関係者にも相談することも多い。	本人、家族の意向を把握して、日々の生活の中から見えてくる状況を踏まえ、職員からも意見を伺い、担当職員が介護計画を作成しケアマネージャーが確認して上で、全職員に回覧して意見を募っている。定期的にモニタリングを実施し、計画の見直しや課題等を把握し、現状の「今」に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は詳しく記録しており、チーム全体で築かれていると思う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診への対応は柔軟に行えているが、サービスの多機能化は取り組めていないと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域とのつながりは年々深まっているが、資源的には把握ができているとは思わない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時のかかりつけ医からホームドクターへ移行される方も多いが、継続して受診されている方もおられる。その際もホームドクターとかかりつけ医が連携をし、支援している。	本人、家族が希望するかかりつけ医を尊重しているが、入居後に、ホームドクターに移行される方が多い。ホームドクターとは日頃から医療に関する相談に乗っていたただき、密接な関係を築いている。医師との連携表や受診記録など、医療に関する情報を整備している。週3回看護師による健康管理も実施されており、専門医への受診の助言など、適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さなことでも日常的に相談し、適切な対応ができるよう努めている。看護職不在時にも電話で指示をもらうなどしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院側へ可能であれば早期退院の意思を伝え、必要に応じて病院の相談員や看護師とやりとりを行っている。入院時はこまめに面会に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関しては早い段階から検討しており、意向を示されている利用者様・ご家族もいらっしゃる。グループホームの介護と医療でどれ位までの痛みや苦しみに対する緩和に寄り添い取り組めるのか、ご家族との関わり方や言葉かけ等の勉強が必要だと感じている。	入居契約時に本人、家族に「重度化対応、終末期ケア対応方針」について事業所として出来ること、出来ないことの説明が行われている。心身状態の変化や日々の様子の共有は家族や医師、看護師と連携を図り、慎重に対応している。「看取り同意書」を用いて、重度化した場合や終末期の意向を本人、家族に確認している。事業所での看取りの経験はあり、家族も本人に寄り添い、医師、看護師、職員と相談しながら、対応、方針を決定し、安心に繋がる支援を行っている。また状態に応じた病院や施設入所への推進支援も行っている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当(救命)訓練は定期的に行われている。急病・ケガの対応についてフローチャートを掲示するなど工夫しているが、実践力が身につけているか不安な職員も多い。	入口の目の付く場所にAEDを設置し、地域の方にも利用出来るようにしている。定期的な業者から使用方法の受講を受けている。消防署が開催している初期対応や救命救急の訓練に参加して全職員が熟知している。マニュアルも整備され、目に付く場所に掲示されている。ユニット同士間で緊急時の連携体制が構築されている。	全職員から学びたいこと等のアンケートを行い、看護師指導の下、特定の病状に関する対応方法や観察ポイントを学ぶ講習会の開催を期待したい。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は定期的に行っており、避難までの基礎訓練である。水害・地震と火災の同時発生など、様々な災害を想定した訓練は行っておらず、実践力が身につけているか不安な職員も多い。	年2回、昼夜共に想定した避難訓練を実施している。地域住民の参加も多くあり、地域との協力体制を築いており、消防署からもお褒めの言葉をいただいている。災害用リュック、非常用工具、拡声器など、玄関の目の付く場所に設置し、すぐに持ち出せるように対応している。マニュアル、ジョイアラートチャートを作成し、全職員が周知している。避難場所の確認、非常食や備品も整備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の尊厳を大切にし、馴れ合いにならないよう職員一人ひとりが気を付けている。会議などで日々の支援を振り返るよう努めている。	トイレ誘導時や排泄時など、具体的な介護場面での声かけには周囲に気付かれないような配慮がなされている。不適切ケア時は、その場で注意し合い、カンファレンス時に振り返りも行い、全職員が心温まる対応に努めている。接遇やプライバシー保護の研修会に参加して、適切な声かけや対応の仕方を学んでいる。日々の記録や利用者情報の管理も責任ある取り扱いを行なっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を大切にした支援をしているが、意思表示が今以上に出来るように、工夫が必要だと感じる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースを大切にし、その人のペースで過ごして頂けるようにしてるが、訴えが少ない方に関しては足りていないと思う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で身だしなみを整えられる方には必要な部分だけをさりげなく助言し、介助が必要な方にはその時に合った服と一緒に準備するなどしている。整容が不十分な時がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みによって、できるものは献立をかえている。祝い日や季節のメニューも取り入れている。準備や片付けも一緒に行うようにしている。	献立は栄養管理委員会が利用者の嗜好を考慮しながら立てている。食事の準備や後片付け、盛り付け配膳等を利用者と共に行ない、一人ひとりの出来る能力を維持している。食材の買い物も利用者と共に行き、外に出る機会も設けている。各テーブルに職員と共に楽しく食事が出来ることを大切にしている。また、祝いの日や季節のメニューを取り入れたり、外食や普段と違う食事を楽しむ機会も設けている。その日の献立をホワイトボードに記入して、目の付く場所に設置している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な方には水分チェックを行い、食事の形態については一人ひとりの力に合わせて検討・支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に応じて、声を掛けたり介助をしている。歯科検診・歯科受診にて、歯科医にアドバイスももらい、支援に活かしている。又歯科医から口腔ケアに関する研修も行ってもらい、支援に活かしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	こまめにカンファレンスを行い、利用者様の身体状況の回復に応じて変化をつけ、維持が出来ていると思う。	排泄チェック表を活用して、一人ひとりの排泄パターンを把握している。パターンに合わせて誘導し、トイレで排泄が出来るように支援に努めている。一人ひとりの習慣や身体機能を理解し、適切な支援が出来るように全職員が統一した介護方法を修得している。リハパンやパット類は安易に使用せず、使用根拠を検討し、家族にも確認のうえで使用するようになっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が起こった時に、下剤で対応していることが多い。食物繊維をもう少し取り入れるなど、食事での工夫も必要だと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その方の習慣・好みに合わせて入浴して頂くよう配慮している。職員が手薄な夜の時間は理由を話し、違う時間に入ってもらっている。	午後からの入浴を基本としているが、希望があれば毎日でも入浴が可能となるようにしている。拒否する方には無理強いせず、工夫して対応し、気持ちよく入浴してもらえるように支援している。状態に応じては、二人対応で入浴介助も行われている。浴室内の暖房、手すりや補助具なども整備され、安全に入浴できるようになっている。季節に応じてゆず湯などの変わり湯も提供されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で眠れない方にフロアで休んで頂いたり、夜間眠れなかった方には日中の休息をおすすめする等をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新たに処方された薬については、特に症状の変化に注意している。一人ひとりの薬については把握不足である。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なことやお好きな活動を活かして役割を持ってもらうようにしたり、お好きな活動にお誘いできるよう努めているが、不十分である。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩・ドライブ・買い物等外出するようになっているが、本人の希望は十分に把握できていない。	一人ひとりの希望に応じての外出は可能である。年間行事計画を作成し、季節の行事やドライブ、外食等、外に出る機会を多く企画している。また、希望があれば家の近くまでドライブに行くこともある。近隣の散歩や施設内の庭を散歩したりと、外の空気に触れることを楽しんでもらっている。思い出作りの写真を撮って、明るく元気で生活している様子を「ユニット新聞」に載せ、職員が手書きで日々の様子を書いたお手紙と一緒に家族に郵送している。また、溜まった写真はアルバムにしてプレゼントしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの大切さは理解しているが、紛失・トラブルの原因とならないよう、原則は自己管理を遠慮して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、希望のある方にはして頂いている。ご家族へ電話やお手紙をお願いすることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに花を置いたり飾りつけを行っている。居心地良く暮らせるように、家具の配置を工夫している。	共有空間は明るく、天井も高く梁があり温もりを感じる。気になる臭いもない。季節の花や季節の飾りつけ、ホールには作品も飾られ心温まる空間となっている。食堂で調理する音や匂いを感じたりと生活感が窺える。ホールのあちこちにソファを置き、好きな場所で寛げるように配慮されている。ホールにはいつも職員が居てお話ししたり、見守ったりと常に気配りや目配りがあり心地良く安心できる空間作りがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファコーナー・畳コーナーなど、独りになれる場所や気の合う方が過ごす機会がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものの持ち込みを説明するも、家具などは配送の関係で軽めなタイプを購入される方が多くなっている。馴染みなもの大切さをもっと説明していきたい。	馴染みの物の持ち込みは自由である。本人、家族、管理者が協力し合い、その人らしく落ち着いて過ごせる居室作りを支援している。トイレも部屋から近い距離にあり、安心して生活できる居室になっている。部屋の掃除は基本、職員が行っているが、利用者からも出来る範囲で作業をしてもらい、出来る能力を維持している。状態に応じて部屋の環境作りを見直し、生活空間を広くして動きやすい工夫を提案している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な方には居室に表札をつけたり、トイレの表示を分かりやすくしている。安全には配慮し、家具のレイアウトを工夫している。		